

令和8年2月1日

各位

公益社団法人千葉県L Pガス協会

県議会におけるL Pガスに関する一般質問について（情報提供）

平素より大変お世話になっております。

さて、先般12月に開催された県議会において、伊藤昌弘県議よりL Pガスに関する一般質問が行われました。

つきましては、当該質問内容及び答弁の概要について、別紙にて情報提供いたしますので、ご確認くださいませようお願い申し上げます。

以上

伊藤まさひろ県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

避難所でLPガス活用を

12月県議会一般質問

伊藤議員 東日本大震災の時には、長期間、広範囲に都市ガス・電気が遮断され、避難所はあるものの、避難所の役割を果たせず、そこでの生活は非常に困難を極める状態だったことは周知の事実であった。

現在、学校の体育館の空調設備の早期実施が進みつつある。災害時に、避難所となる体育館の空調設備にLPガスを燃料とする冷暖房設備を導入すれば、災害時にガスラインの破損などの状況下においても十分に力を発揮できることなどから、

防災危機管理部長 避難所にLPガスを活用する資機材や、燃料を保管供給するための設備を設置すること、被災者の良好な生活環境を確保する上で有効な手段のひとつと考えております。

県としては、避難所におけるLPガスの活用事例等について市町村に情報を提供し、県においても設置



県の施策を質問する伊藤昌弘県議

再質問

伊藤議員 停電や都市ガスの供給途絶に備え、避難所にLPガスで稼働する空調設備とともに、燃料を確保するための災害バルク供給設備等の大型保管容器的整備を進めるべきと考えられるかどうか。

被災者の良好な生活確保

を推進し、避難所となる小中学校の体育館が重要となりますので、市町村にも補助制度の案内や情報の提供を進め、災害に強い千葉県を推進するよう要望する。

佐倉、酒々井を夢のあるまちにと、議員活動に全力を挙げている伊藤昌弘県議(5期)は12月定例県議会に登壇し、避難所でのLPガス活用、浄化槽の法定検査、介護人材の不足問題などについて知事ら県執行部に質問しました。災害で電気や都市ガスがストップした避難所では寒さや暑さへの我慢が強いられませんが、伊藤県議は、LPガスの冷暖房設備を避難所として利用される体育館などに備えておけば問題は解決するとして、県に整備を提案しました。

災害時の発電や冷暖房に

国のエネルギー基本計画においても、「災害時におけるエネルギー供給の最後の砦」と位置付けられている。そこで、LPガスを燃料とする

国にエネルギー基本計画においても、「災害時におけるエネルギー供給の最後の砦」と位置付けられている。そこで、LPガスを燃料とする

今後、避難所における生活環境の向上に向け、災害による停電や都市ガスの供給途絶時にも、LPガスを含めた多様なエネルギーを活用できる環境の整備を促進してまいります。

る非常用発電設備や冷暖房設備などの整備を進めるべきと考えられるかどうか。

今後、避難所における生活環境の向上に向け、災害による停電や都市ガスの供給途絶時にも、LPガスを含めた多様なエネルギーを活用できる環境の整備を促進してまいります。

とつと認識をしています。このため県では、市町村向けに作成している「災害時における避難所運営等の手引き」において、LPガスの利用が可能な資機材の確保について促すとともに、LPガスを燃料とする発電設備や空調設備等の避難所への設置に取り組み市町村への財政支援も実施しているところです。

伊藤まさひろ・PROFILE

- 略歴
- ◆昭和30年 佐倉市に生まれる
- ◆昭和53年 日本大学法学部卒業
- ◆平成7年 佐倉市議会議員当選
- ◆平成11年 佐倉市議会議員再選
- ◆平成19年 千葉県議会議員当選
- ◆平成23年 千葉県議会議員再選
- ◆平成27年 千葉県議会議員3選
- ◆平成31年 千葉県議会議員4選
- ◆令和5年 千葉県議会議員5選

- 現職
- ◆印旛沼水質保全協議会 顧問
- ◆農政審議会 委員
- ◆佐倉リトルシニア野球協会 会長

●県政や佐倉市・酒々井町のまちづくりに関する悩みごと、気軽にご相談ください!!

伊藤まさひろ 県議事務所

〒285-0811 佐倉市表町3-6-28
TEL.043-485-8019
FAX.043-486-1616



再質問をする伊藤県議

振るわぬ浄化槽法定検査 受検率向上へモデル事業

伊藤議員 水環境の保全を図るためには、家庭から排出される生活排水を適切に処理することが不可欠であり、下水道未整備地域においては、浄化槽による処理と、その適正な維持管理が重要となる。

浄化槽法では、浄化槽の管理者に対し、装置の調整等を行う保守点検や、汚泥の引き抜き等を行う清掃、さらに県が指定する機関による法定検査の受検が義務付けられているが、依然として低い水準にとどまっている。

そのためは、使用開始後及び毎年1回の法定検査が確実に実行されることが必要であり、県としては、受検率向上のため、業界団体、指定検査機関、保守点検業者、市町村と連携して様々な取組を進めています。

具体的には、浄化槽の設置工事や保守点検に関わる業界団体等を通じた浄化槽管理者への法定検査の周知や、指定検査機関と協力して未受検者への指導文書の送付を行うとともに、送付後の問合せから検査の申込みまで対応するワンストップ

プ窓口を指定検査機関に設置しています。

関係団体等とは、定期的な意見交換をし、課題の共有や解決策の検討等を行うとしています。

伊藤議員 関係団体と進めている法定検査を受検しやすい新たな仕組みの検討状況はどうか。

環境生活部長 県では、浄化槽の法定検査の受検率向上を図る観点から、排水の汚れの指標となるBODを測定することで検査の一部を軽減して行うBOD検査を推進することとしてい

ています。今年度は、浄化槽管理者が受検しやすい仕組みの導入に向けてモデル事業を実施したとしています。

伊藤議員 関係団体と進めている法定検査を受検しやすい新たな仕組みの検討状況はどうか。

環境生活部長 県では、浄化槽の法定検査の受検率向上を図る観点から、排水の汚れの指標となるBODを測定することで検査の一部を軽減して行うBOD検査を推進することとしてい

ています。今年度は、浄化槽管理者が受検しやすい仕組みの導入に向けてモデル事業を実施したとしています。

伊藤議員 関係団体と進めている法定検査を受検しやすい新たな仕組みの検討状況はどうか。

環境生活部長 県では、浄化槽の法定検査の受検率向上を図る観点から、排水の汚れの指標となるBODを測定することで検査の一部を軽減して行うBOD検査を推進することとしてい

ています。今年度は、浄化槽管理者が受検しやすい仕組みの導入に向けてモデル事業を実施したとしています。

伊藤議員 関係団体と進めている法定検査を受検しやすい新たな仕組みの検討状況はどうか。

環境生活部長 県では、浄化槽の法定検査の受検率向上を図る観点から、排水の汚れの指標となるBODを測定することで検査の一部を軽減して行うBOD検査を推進することとしてい

ています。今年度は、浄化槽管理者が受検しやすい仕組みの導入に向けてモデル事業を実施したとしています。

伊藤議員 関係団体と進めている法定検査を受検しやすい新たな仕組みの検討状況はどうか。

環境生活部長 県では、浄化槽の法定検査の受検率向上を図る観点から、排水の汚れの指標となるBODを測定することで検査の一部を軽減して行うBOD検査を推進することとしてい

介護人材の不足時代間近 介護ロボットや ICTの導入を

伊藤議員 千葉県では今後、高齢化が進むことで介護ニーズは大幅に増加し、2040年には、約2万8千人の介護人材が不足することが見込まれている。

このような状況においても、介護事業所がサービスの質を確保し、地域における安心の担い手として、役割を果たし続けるためには、介護ロボットやICTなどのテクノロジーを積極的に活用することで、職員の身体的負担の軽減や、紙媒体での

情報のやりとりの見直しなど、業務の効率化を進めていくことが必要。

伊藤議員 介護ロボットやICTの導入を促進するため、どのように取り組んでいくのか。

知事 高齢化が進捗し、生産年齢人口の減少が見

組んでいくのか。

知事 高齢化が進捗し、生産年齢人口の減少が見

組んでいくのか。

知事 高齢化が進捗し、生産年齢人口の減少が見

組んでいくのか。

知事 高齢化が進捗し、生産年齢人口の減少が見

日本遺産北総四都市江戸紀行

伊藤議員 「日本遺産北総四都市江戸紀行」における構成4市や企業等との連携について、県が音頭をとって取り組んでいくべきと考えがどうか。

教育長 県教育委員会は、佐倉市、成田市、香取市、銚子市とともに設置した「日本遺産北総四都市江戸紀行活用協議会」の事務局として、民間企業と連携し、4市を巡るツアーの造成や

携し、国内外に多くの利用者がいるオンラインゲームの仮想空間上に佐倉城などの文化財を再現して、プレイヤーが巡ることのできる体験型ゲームの開発に取り組みしていると

今後とも、4市や企業などとともに、地域の活性化につながる取組を進め、日本遺産の魅力を国内外に向けて積極的に発信してまいります。

オンラインゲームを開発